新刊紹介

山本一巳・山形辰史編『国際協力の現場から―開発にたずさわる若き専門家たち』

山形辰史

岩波ジュニア新書
No.564
2007年

あなたの夢は何ですか、と今の子どもに尋ねたら、どんな答えが返ってくるのだろうか。今日、お金を積めば宇宙旅行にも行けるというから、宇宙にさえ夢を託しがたいかも知れない。政治家もドロドロした側面が強調されて、子どもにとって夢の職業ではないように思われる。

そんな世の中にあって、開発途上国への国際協力は現在でも、子どもの夢になりうる仕事の一つではないだろうか。マザー・テレサや緒方貞子さん、明石康さんにあこがれる子どもはいると聞く。

我々日本人の多くは、衣食住に不自由ない生活を送り、基本的人権を享受している。しかし、世界の他の地域では、食べるものに困ったり、またその食べるものを得るために教育を得る機会を逸してしまったり、親と離ればなれになってしまったりする子どもがいる。場所によっては、武力衝突によって生命さえ危険にさらされたり、肉体的に、または性的に危害を加えられたりすることもある。そんな危険の中にいる人々と、我々一般的日本人の落差はいったい何によるのか。それはどのようにして埋められるのか。そして、その落差を埋めることに自分は貢献できないのだろうか、という問いは、素朴であるがゆえに力強いエネルギーと持続力を持っている。「落差を埋めること」を国際協力に求め、それを自分の夢にする多くの若者がいる。

本書は、そんな若者達の人生の、いわば「中間決算報告書」である。本書の執筆者達は、国際協力の世界で職を得、既に数年から十数年の経験を有している。彼らは、「夢の入り口」にはたどり着いたけれども、まだ「夢を実現」してはいない。というのは、「落差を埋める」作業の完成は並大抵ではなく、彼らも何度か失敗の憂き目にあい、再考や再出発を余儀なくされているからである。

しかし彼らの奮闘、挫折、そして再起は、国際協力の仕事を夢に描いている、彼らより若い読者にとっては憧れでさえあるだろう。そういう読者にとっては、「落差を埋める」ことを試みる立場にあること自体が素晴らしい、と感じられるかも知れない。

筆者はアジア経済研究所開発スクールの講師として一七年間、国際協力を職業にすることを目指す若者達と過ごしてきた。同スクールの卒業生が中心となって、本書が編集された。スクールの卒業生の多くは、様々な立場から国際協力に関わり、成功も失敗も経験している。筆者は、そんな彼らの人生を傍らから眺め、本書の読者と同様の感想を持つのである。夢を追う彼らの姿は、それが報われた場合でも報われなかった場合でも、何か清々しい。その清々しさの一部分でも、若い読者に伝えることができたら、本書の執筆者達の心を引き継ぎ、いつの日か、我々の「夢を形に」してくれるのではないか。そのような思いから筆者は、同スクールの初代学部長である山本一巳愛知大学教授と、本書を編集した。

本書の執筆者達は現在、国連職員、NGO職員、日本の援助機関・コンサルティング会社の職員、等々様々な立場から、国際協力の第一線で活躍している。本書は、次世代の読者達や、現在は国際協力以外の分野で働いている読者を、国際協力の世界にいざなうことを目的として編集された。功成り遂げた成功者の回顧録ではなく、疾風怒濤のただ中にいる当事者達が、国際協力活動を通じて得られる達成感のみならず、開発途上国や日本、あるいは国際社会のしがらみの中で感じる挫折感や無力感をも、率直に綴っている。彼らの実感を通した率直な見方や主張が、多くの読者の共感を呼ぶことを期待したい。

（やまがた　たつふみ／アジア経済研究所開発研究センター）

目次

第一部　逆境に立ち向かう
貧困削減　萩原　烈
食糧　高田美穂
ジェンダー　寺園京子
セックス・ワーカー　松野文香
難民　帯刀　豊
第二部　子どもたちの未来のために
子どもの権利　本田涼子
子どもとエイズ　末廣有紀
教育　荻野有子
児童労働　松野文香
第三部　平和な世界を目指して
紛争　北原直美
武器と兵士　瀬谷ルミ子
犯罪防止　ラッセルまり子
第四部　国際協力のアプローチ
開発援助　堀金由美
技術協力　又地　淳
農業開発　藤田達雄
環境保全　堤　理恵
法制度改革支援　山田美和
開発のための調査　牧田りえ
（コラム）インフラストラクチュア　轟由紀